

御神事踊り巡行路図



※14時～20時まで、御神事踊り巡行のため交通規制がありますので、ご注意ください。



北町での御神事踊り

交通案内 上信越自動車道更埴ICから 車約10分
 しなの鉄道屋代高校前駅から 徒歩約20分
 しなの鉄道屋代駅から 須坂方面行バス約10分

駐車場案内 長野電鉄屋代線雨宮駅跡地
 東部体育館駐車場
 (神社前を森方面、南へ約800m)

作成 雨宮御神事踊り保存会
監修 千曲市文化観光スポーツ部
問合せ先 千曲市歴史文化財センター
 〒389-0821 長野県千曲市上山田温泉四丁目15-1
 電話:026-214-2741
 メール:bunkazai@city.chikuma.lg.jp

国指定
重要無形民俗文化財

雨宮の 神事芸能 (御神事)

長野県千曲市 雨宮坐日吉神社



祭りのクライマックス「橋懸り」

歴史

御神事の発祥は古く、雨宮と屋代に日吉神社が勧請された鎌倉時代にさかのぼるが、詳細は不明である。
 近世には、森・倉科・生萱・土口・雨宮の5か村による雨宮山王宮(雨宮坐日吉神社)と、矢代村の矢代山王宮(須須岐水神社)との合同祭事であったが、明治4年(1871)の廃藩置県により取り止めとなった。
 以後、5か村の共同祭事として行ってきた御神事は、明治22年(1889)市町村制施行に伴い廃止された。
 今では雨宮地区のみで、雨宮坐日吉神社の春季例大祭に際し、三年に一度御神事踊りが奉納されている。
 祭事は時代によって変化してきたが、御神事の役職と踊り、音曲、所作等は、昔の形が守られ伝承されてきた。

*「雨宮古老談」(1623年)によると、その昔生仁の豪族「種津殿」が矢代(屋代)の「お飛礼」という女性と浮気をし、そのため、妻の「雲井の前」が恨んで死んだという。以来、「雲井の前」の怨霊のたたりが村におよび、田畑が荒れ疫病が流行し、そのたたりを鎮めるために祭りを行うようになったと言われている。

文化財の指定

指定名称:国指定 重要無形民俗文化財「雨宮の神事芸能」
 指定年月日:昭和56年(1981)1月21日
 ※昭和47年以降、3年毎の4月29日に執行
 令和2年(2020)、令和5年(2023)、令和8年(2026)開催予定



社前での御神事踊り

御神事踊りのあらし

踊りの諸役が神社の大鳥居下に集まり、天狗面を付けた御行司を先頭に、神面を付けた六大神、作神様を表した御鉢、童子の扮する児踊り・中踊り、宝珠獅子・陰獅子・陽獅子二頭の四頭の獅子、笛・歌の囃子方および太鼓などの諸役が列を組んで、中門から社前に練り込み二座踊る。

その後、町内の若宮社・北町・御旅所・御立ち会・斎場橋および唐崎社を次々と巡行して、それぞれ一座踊り、神社に帰還する。



社前に練り込む御行司



社前での児踊り

御神事踊り行程表

※表記の時間は、進行上多少前後します。
○数字は、巡行路図の場所を示します。

- 9:00~ お道具受け 社務所
- 11:40~ 町太鼓出発 神社~町内一巡
- 12:40~ 集合 大鳥居前
呼び上げ後、中門に進む

13:00~本社前①

朝踊り 35分
城踊り 25分

14:00~本社出発

踊り祭列の後
神輿が出發

14:20~若宮社②

踊り 25分
休憩 30分

15:15~若宮社出發

15:45~北町③

踊り 20分

17:05~御旅所④

踊り 20分



*獅子頭は毎回、長さ30cm、幅5cmほどの短冊状の和紙を1,800~2,000枚貼り重ねて作られる。



17:40~若宮社入口⑤

早駆け

17:50~大鳥居前

呼び上げ



18:05~御立ち会⑥

化粧落とし
踊り 20分



18:30~斎場橋⑦

橋懸り
踊り 25分

※橋は、通行止めになります。指定の見学場所から、ご観覧ください。



1972年の橋懸りの様子

19:00~唐崎社⑧

踊り 15分

19:30~神社帰還①

お道具納め

19:45 解散



はやが早駆け

若宮社入口より神社前までは笛は止み、太鼓は早打ちに替り、神輿とともに御神事踊りの祭列を追い上げ、祭列は早駆けで神社の大鳥居内に駆け込む。これは、後から矢代(屋代)の「一つ物」がやって来るからだといわれている。

*一つ物とは、祭礼の時に神霊を形とって、神輿渡御に参加する童子とその行列のこと。矢代山王宮(須須岐水神社)の神輿は、明治4年(1871)まで、雨宮の唐崎社まで巡っていた。

けしやうお化粧落とし

御立ち会で踊っている獅子のたて髪を、見物人がはぎ取るこの神事は、橋懸りの準備として行われるといわれている。

このたて髪を家に持ち帰り、軒に吊るして疫病払いや、神棚・仏壇に供えると御利益があるといわれている。

はしがか橋懸り

沢山川に架かる斎場橋の欄干から、獅子頭を持った4人の体をロープで逆さに吊るし、川面で獅子頭を前後に激しく振り、災いや厄を水に流す神事といわれている。

橋懸りは祭りのクライマックスで、田植えの時期を前に、怨霊のたたりを川に流し、その年の五穀豊稔を祈願したものである。

獅子頭からはがれた和紙が、千曲川を流れ下り新潟県に流れ着くころ、雨宮地域の田植えが始まるといわれ、小麦や玉ねぎの収穫後田植えが行われた。